

呼吸器のエキスパートを目指すなら

～内科専門研修の案内～



独立行政法人 国立病院機構

東京病院

National Hospital Organization
Tokyo National Hospital



院長 松井 弘稔

好きな言葉は、

「速く行くななら一人で行きなさい、
遠くへ行くなならみんなと行きなさい。」

東京病院ではどちらの道も選べます。



東京病院における研修のメリット

プログラム統括責任者

副院長 佐々木 結花

1. 国内最大規模の呼吸器病床数

一般呼吸器病床を約200床有しており、他院では経験できない多種多様な疾患の検査、治療を経験することができます。

2. 結核診療を十分に経験できる

結核病棟も首都圏最大の50床あり、専門的な対応が会得できます。非結核性抗酸菌症の症例も豊富です。

3. エキスパートが揃い踏み

肺感染症、肺癌、びまん性肺疾患、COPD、気管支喘息、肺循環・喀血など、各々の領域や部門のエキスパート医による指導を受けることができます。

日本呼吸器学会指導医が17名在籍しています。各種カンファレンス、レクチャーも充実しています。

4. 多職種チーム活動も活発

外科手術や放射線治療、術前術後化療、緩和医療等、呼吸器疾患へのシームレスな診療を経験でき、様々な多職種チーム活動に参加することも可能です。

5. 開放的な運営がモットー

常勤医の出身大学は国公立、私立を問わず、全国に広がっており、伝統的に開放的な運営をしています。専攻医も様々な大学や病院から来ています。

6. 呼吸器以外の専門医を目指す専攻医も歓迎

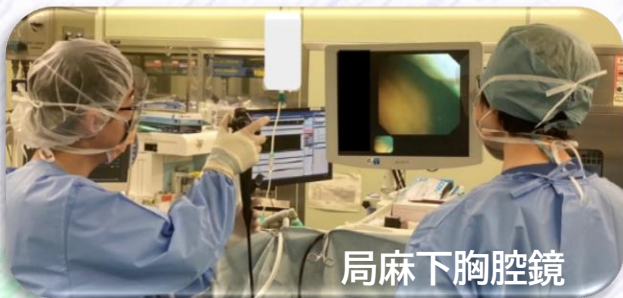
これまで消化器科や循環器科などを目指す専攻医の呼吸器研修もお引き受けしてきました。内科専門医の領域を問わず、当院での呼吸器研修は将来、必ず役に立つと思います。

7. オン・オフがはっきりした当直制

当直体制では必ず常勤呼吸器内科医が当直に入っています。

呼吸器週間予定表

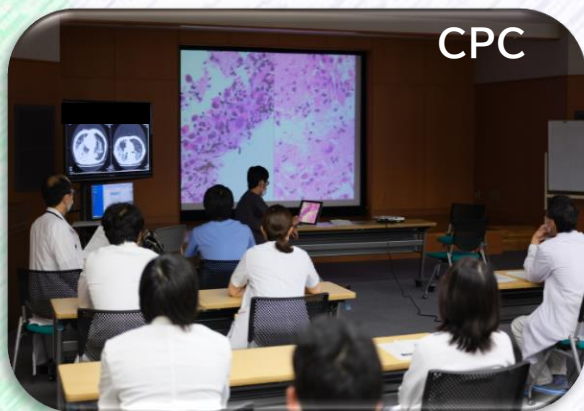
	AM 8:15～	AM 9:00～	PM	PM 5:00～
月				病棟 conf(4E,5E)
火	肺癌conf. (外科・放射線科合同)	気管支鏡	局麻下胸腔鏡	病棟 conf(6W)
水	レジデント講義	気管支鏡	気管支動脈塞栓術 抗酸菌症寺子屋 難治症例検討会 結核病棟新患conf.	
木	結核conf.	気管支鏡	右心カテーテル	
金	抄読会	局麻下胸腔鏡	気管支動脈塞栓術	



局麻下胸腔鏡



気管支鏡



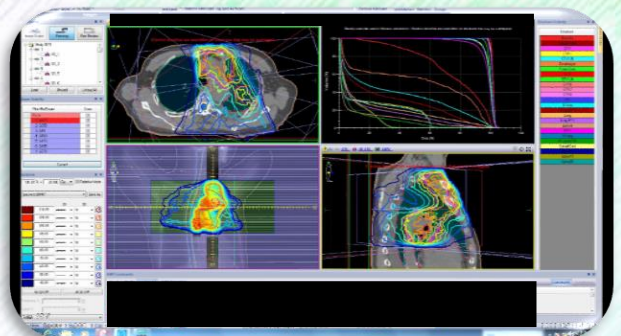
CPC



寺子屋



胸腔鏡下手術(呼吸器外科)



IMRT線量分布図(放射線科)



プログラム研修委員長からのメッセージ

呼吸器センター部長

守尾 嘉晃

肺はひとの健康を映し出す『鏡』とも考えられる、と私はかつて先輩医師に教わりました。肺は、気道を介して外界に接し体循環から還流した血液全てを受けとめる特殊な臓器です。それ故、肺は環境曝露や全身状態の影響を反映して、ひとの健康を映し出す『鏡』と考えられています。「健康を映し出す『鏡』」である呼吸器疾患の診療技量の修得は、医師の中でもジェネラリストとして全人的に診療できるアドバンテージになると思います。内科専門研修の一時期を東京病院で過ごすメリットは、呼吸器疾患の診療に自信が持てるようになることです。東京病院では、結核診療のメッカであった歴史的な背景から、以前より肺結核症はもとより、肺非結核性抗酸菌症や肺アスペルギルス症などの慢性肺感染症の豊富な診療経験ができます。また呼吸器疾患には、気管-気管支-肺胞にかけて、感染症、腫瘍、炎症性疾患、循環障害、アレルギー性疾患、代謝性疾患、胸膜疾患、出血や外傷などの多様な疾患がありますが、肺癌、びまん性肺疾患/難治症例、結核/非結核性抗酸菌症などの多数のカンファレンスがあるので、多様な呼吸器疾患に対する診断/治療管理のマネージメントが自然に身につけてきます。カンファレンスで受け持ち以外の症例も学ぶことができて、呼吸器診療の経験値が深まります。さらに気管支鏡、胸腔鏡、気管支動脈塞栓術、CTガイド下生検、右心カテーテル検査などの診断/治療ツールが確立されているので、申し分なく診断技量の習得もできます。一方でいろいろな病院から多数(10名ほど)の呼吸器内科志望の研修医が来ていて、常勤の呼吸器内科医が20名ほどいるので、研修期間中に自分の立ち位置や得意/不得意を捉えつつ、将来的に呼吸器診療のどの分野に自分の専門性を見出すこともできると思います。また呼吸器内科医以外の先生方、例えば循環器内科医の先生方も東京病院で研修されています。呼吸器疾患に対する診断/治療管理のマネージメントの修得は、他科の先生の専門診療に活かされて、ジェネラリストとして全人的な診療に繋がります。他方、日本呼吸器学会をはじめ国内外の呼吸器臨床の研究会では、有数な研究発表を展開しています。以上のように当院は、呼吸器臨床医の研鑽を積む場として申し分なく恵まれた環境です。また東京都から、平成23年、地域災害拠点病院、平成28年、地域医療支援病院として承認されています。呼吸器疾患の全般的な診療以外にも地域医療の向上に努めております。実り多い呼吸器臨床の研修を目指す先生方は、是非、当院の門戸を叩いてください。一緒に呼吸器臨床医の研鑽を積んでいきましょう。お待ちしております。



臨床研修センター長からのメッセージ

副院長

佐々木 結花



国立病院機構東京病院は、長い歴史の積み重ねと新しい力が結集した病院です。沿革は旧く、1962年1月4日に 国立東京療養所と国立療養所清瀬病院を統合し国立療養所東京病院となり、結核・呼吸器疾患の中核病院として業績を重ねてきました。結核患者減少により病院機能を多角化し、1977年、難病を中心とした神経筋疾患を診療する難病病棟開設、1981年、脳血管障害へのリハビリ病棟開設、1984年、肝胆膵を中心とした消化器疾患診療開始、1992年には臨床研究の要となる臨床研究部がスタートし、呼吸器、呼吸器感染症だけではなく、総合リハビリテーションについても臨床データに基づいた研究室が

設けられました。その後、エイズ診療の先駆けとなり、1995年、重症感染症病棟が開設され、国立病院の使命である政策医療と、幅広い呼吸器の診療、地域医療を請け負う一般診療を行う地域医療の要もかね拠点病院と称されました。その後国立病院機構に移管され今に至っています。呼吸器センターは2010年に、開設され、呼吸器内科部門として、感染症・腫瘍・びまん性肺疾患・COPD・肺循環/咯血の5部門の診療体制で運営され、2008年に開設したアレルギー科、緩和ケアも併設され、呼吸器の全領域を診療しています。

当院の特徴は、多くの疾患を経験できることです。それだけではつまらないのではないかと思います。その疾患についての奥行を皆様知りたくはありませんか？エキスパートオピニオンを聞き、エビデンスを学ぶことができる場が与えられることが、研修中には大切だと常々考えています。当センターは呼吸器内科医が数多く所属しており、エキスパートがおり、討議・討論ができます。討議・討論は、自身が考え判断する力を養うことができます。その重要性は計り知れません。それを研修の時代からできる、ということは他の施設にはない当院における研修の強みです。加えて、呼吸器の様々な検査手技、例えばinterventionを含めた気管支鏡検査、気管支動脈造影及び塞栓術、右心カテーテル検査など、一般病院で紹介するような病状に行う検査手技を、実際に、かつ、間近で学ぶことも可能です。学会活動も多岐にわたります。発表経験だけでなく、論文作成の応援もしています。英文投稿もお世話します。私が強調したい事はもう一つあります。当院は何よりも、医師間の風通しがよく、和気あいあいとした雰囲気であること、指導医との間に障壁がないこと、「おはようございます」から始まる素敵な光景が当科にはあること。研修するうえで大きな魅力だと思います。ぜひ、当院で呼吸器診療を学んでみませんか。私は皆様にサポートします。



指導医からのメッセージ

川島 正裕

内科医として呼吸器疾患ほど幅の広さを感じる領域はありません。呼吸を介して常に外界と繋がっている臓器であるがゆえに発症する多彩な感染症、アレルギー疾患、閉塞性肺疾患ならび職業性肺疾患、ここ10数年で遺伝子異常や癌免疫機序に基づく特異的治療が導入され飛躍的進歩を遂げる肺癌、体循環の全血流が必ず肺循環というフィルターを通るという必然から急激にあるいは緩徐進行性に生命に大きな影響を与える肺循環障害、自己免疫や原因不明の炎症性病態とその修復過程の異常（線維化病態）を主体とする間質性肺疾患、更にあらゆる呼吸器疾患に伴う急性・慢性呼吸不全と呼吸管理、近年では癌領域のみならず慢性呼吸器疾患の終末期にも検討の幅が広がりつつある緩和医療等々、主要な呼吸器病態と管理に関して、それぞれがまた広大な広がりを持っていることがわかつています。



大学病院の呼吸器内科であってもすべてのサブスペシャリティに対して専門家を揃えることは困難です。当院呼吸器内科は肺病（結核の古い呼称）を専門とする国立療養所から続く歴史とそれに憧れをもち引き寄せられた呼吸器専門医の大所帯ゆえ、ほぼ全ての呼吸器疾患領域に対し専門家に相談しながら診療や研究を行うことが可能です。呼吸器内科医なのにIVRをやっている希少な喀血専門家である私が言うくらいなので、間違いはありません(笑)。多種多様な呼吸器疾患の患者さんと呼吸器専門医からの学びを考えている「あなた」、ぜひ東京病院での研修をお勧めします。

成本治

当院の呼吸器科は基本的には一年間指導医が固定で日常診療の指導を行い、その上で各領域のエキスパート医師に必要時コンサルトしつつ診療してゆくシステムとなっております。なかなかありそうでないシステムであり、そのときの診断・治療のことだけでなく、診断の時から最期に至るまでどう関わってゆくのか指導医と相談しながら考えて学んで頂けます。診断、治療に関してもどのようにして調べてゆくのかを学んで頂いたり、当院の研修を終えたころには一人でも診療を行ってゆけるようになる可能性の高いシステムになっているかと思います。もちろん知識としてもいろいろ学んで頂けるよう、常勤医による講義、エキスパートによる寺子屋なども行っております。



また、楽しく研修をしていただけることを第一に心がけています。呼吸器内科はもちろんのこと他科も総合病院ほどそろっていませんが風通し良くお互い相談できるような雰囲気があります。ここで1-2年間の研修を行うことは呼吸器内科のキャリアとして得難いものだと思います。検討されている方はぜひご連絡ください。



専攻医からのメッセージ

下園真人

私は初期研修病院の先輩からの紹介で見学したのがきっかけで当院内科研修プログラムを選択しました。当初は抗酸菌症、真菌症など一般病院ではなかなか経験しない症例が多いため四苦八苦しながら研修を開始しましたが、各分野に精通した指導医の先生方のフィードバックを受けることができ、充実した研修生活を送ることができました。当院は喀血に対してのBAE、肺高血圧症に対しての右心カテーテル、胸膜疾患に対する胸腔鏡など他科に依頼するような手技も呼吸器内科主体で行っています。希望すれば指導医の先生方に教わりながら検査・治療に参加することができます。

また、市中病院でありながら臨床・基礎研究も積極的に行っており、日常診療を行いながら研究の仕方を学ぶこともできます。すべての科が揃っている病院ではないため、合併症や併存疾患に対してある程度自分で対応していかなければなりません。しかし一方で、内科医として身につけるべき知識や技能を身につけていける環境でもあります。呼吸器の中で専門にしていきたい分野が決まっていない方、臨床だけでなく研究もしてみたい方、抗酸菌症や真菌症などの感染症・BAEなど専門的な分野をより深く学びたい方は一度見学に来ていただける幸いです。



(2023年4月、当院を基幹施設とする呼吸器連動専門研修3年目研修中)

碓井友理奈



東京病院は呼吸器内科のスタッフが他の病院と比較しても多く、先生方全員が優しく教育的なサポートをしてくださいます。結核や真菌症含め、多岐にわたる呼吸器疾患の症例に触れることができ、幅広い経験を積むことができます。特にレジデント向けの勉強会が豊富で、充実した教育環境が整っています。また、各レジデントの個々の希望や目標に応じて、それぞれがやりたいこと、学びたいことに関して全力でサポートしてくださいます。自分の進みたい道を明確にすれば、その道に向かう経験を積むことができる環境が整っています。また、しっかりとしたバックアップ体制が整っており、安心して日々の診療を行うことができます。

同じチームの先生とだけでなく、呼吸器内科分野の中でも様々な専門をお持ちの先生方と相談し合いながら診療を行うことができます。他科の先生方含めて相談しやすいアットホームな空間であり、誰もが過ごしやすい環境であると感じています。病院の敷地も広く、周囲も緑に囲まれ、周りを見渡すだけで心も体も癒される空間です。緩和病棟も併設しており、担当患者さんのターミナルにまで携わることができます。

(2023年4月、当院呼吸器連動専門研修3年目研修中)

青森県にある弘前大学に入局し、現在呼吸器内科専攻医として東京病院で研修させて頂いております。遠い地から当院へ研修を希望した理由としてはやはり当院の強みである抗酸菌、真菌など感染症に関して重点的に学びたいと考えた点です。しかし感染症診療だけではなく、東京病院は呼吸器内科専門の医師が多数勤務されており、閉塞性肺疾患、間質性肺炎、肺癌、気管支動脈塞栓術など様々な分野の専門家がいるという点が非常に大きな強みであると実感しました。一緒に病棟を担当する指導医の先生はもちろん、他の専門家にも気軽に詳しくアドバイスを頂き、治療方針に関して深めることができるという点は今までの研修病院とはまた違った当院の特徴です。また、実際に指導医の先生方は毎週勉強会として結核の疫学、治療やその他呼吸器疾患



に関して専門の先生方がレクチャーの機会を設けて下さいます。呼吸器内科として勤務し実際に症例を通して学んでいた部分を体系的に学ぶことができ、より臨床の知識に関して深めていくことができます。症例経験に関しても担当患者だけではなく、毎週病棟、結核、難治症例など複数カンファレンスの機会が設けられており、担当患者以外の症例に関して検討することができるということも当院の強みです。指導熱心・研究熱心な先生方も多く、海外学会に演題を出したり、論文作成をしたりなど学術的な面でもサポートしていただける病院です。呼吸器疾患に関してじっくり楽しく学びたいという先生方は是非病院見学にお越しいただけますと幸いです。

(2023年4月、弘前大学を基幹施設とする呼吸器連動専門研修3年目研修中)



当院気管支鏡生検(TBLB)カンファ



見学のお問合せ

お問合せ窓口

呼吸器内科 川島 正裕

✉ kawashima.masahiro.wr@mail.hosp.go.jp

見学の注意事項

- ①見学の際は名前、卒業大学と年度、現在の職場、メールアドレス、希望の日付（通常 水曜日に見学を行っています。第3希望まで、半日の場合はその旨も）を記載の上、上記メールアドレスまでご連絡ください。
- ②見学の方が多き時期にはご案内まで時間がかかることがあります。
- ③土日・祝祭日は見学できません。
- ④白衣・所属施設のネームカード・聴診器・筆記用具等必要なものをご持参ください。

研修体制

内科指導医数 26名

給 与(参考)※当直手当別途支給

1年次 339,200円/月

2年次 352,000円/月

3年次 364,800円/月

当 直 平均3回/月

宿 舎 あり

保育所 院内あり

病院概要



独立行政法人 国立病院機構

東京病院

National Hospital Organization
Tokyo National Hospital

病院長 松井 弘稔

住 所 〒204-8585

東京都清瀬市竹丘3-1-1

TEL 042-491-2111(代表)

FAX 042-494-2168

URL <https://tokyo-hp.hosp.go.jp/index.html>



アクセス：西武池袋線清瀬駅よりバス5分